

## ◆ごあいさつ◆

## 一年間を振り返って

協議会会長 青木雅矢



この1年間、富島中学校の学校運営協議会委員として活動させていただき、多くの気付きを得ることが出来ました。まずは、子どもたちの素晴らしさです。体育大会では子どもたちが互いに切磋琢磨し、最高の大会を作り上げておりました。また、意見発表会で発表された2名は、己の考えをしっかりと伝える事が出来ておりました。

さらに、学校の素晴らしさにも目を見張るものがありました。我々の時代では考えられなかったことですが、生徒と共に校則の見直しを行い、生徒が自身の考えを述べる事が認められ、教員がその意見に耳を傾け、校則の意味について共に考えられておりました。こういった活動は生徒の主体的な活動を促進し、自ら考え行動できる人間を育成してくれることと思います。そのような素晴らしい子どもたちや学校と共にある地域は、どのようにあるべきなのでしょう。学校運営協議会では「接撃の飛び交う魅力ある地域」を目指して行く事になりました。あいさつも、ただするのではなく、子どもたちや学校の先生方のように、主体的に行っていくべきと考えます。また、その実現のためには中学校のみで行うのではなく、小学校や各就学前施設、企業等とも連携し、地域全体で想いを共有していく事が大切だと考えます。子どもたちに主体的に関わっていく地域であり、子どもたちに寄り添い、えがおであいさつが出来る地域となるようにこれからも頑張っていきたいものです。

## ◆協議会委員として「1年間を振り返って」◆



一政浩代 委員

コロナ禍で何をやるにも制限があり、難しい1年になりました。私自身も児童とあまり接することができなく、歯がゆい気持ちもありました。そんな中、何かできることから、どんなことをしたらよいか協議しあいながらも、あっという間の1年でした。少しでもできることを、学校・子ども・家庭・地域で連携を図り、実践し、継続していけるよう、そしてこれからも、明るく元気で楽しく学べる学校にと願っています。協議会委員として出会いがあり、私自身とても勉強になりました。ありがとうございました。



市島荘史郎 委員

協議会に参加した第1回と第2回頃までは、校長や教頭のご意見や報告を聞くだけで時間が過ぎていく感じでしたが、後半になって少しずつ会議に参加できるようになりました。あいさつ運動は有意義な取組で、さらに進化・工夫が必要だと思えます。登下校時のあいさつだけでなく、家庭内でのあいさつができていく等まで活動が進むと素晴らしいと思えます。

コミュニケーションはあいさつから始まりますが、協議会委員として学校を訪れた時、あいさつが積極的にできていないように感じていましたが、あいさつ運動の継続により、少しずつではありますが生徒たちからあいさつがもらえるようになってきたように感じます。継続して行うことが改めて大切であると今更ながら感じました。小学校、中学校と共同で行っていますが、今後は富島高校も巻き込み、地域全体で取り組んでほしいと思えます。



柳田仁司 委員

何をすべきか戸惑いながらも引き受けさせていただいた学校運営協議会でしたが、これまで学校教育或いは学校運営の視座で地域について考える機会が無く、非常に学びの多い場でありました。先生方は勿論、他の委員の皆様も様々な知見をお持ちであり、子ども達を思う一貫した気持ちに感服すると同時に、地域と学校は子どもたちを通じて、相互に、深く、その存在を支え合う関係であるということに改めて実感させられました。



高木慎平 委員



高西了一 委員

『地域と共にある学校』を目標とし、地域との連携の芽が出てきた所かと思えます。コロナ禍ではありますが、あいさつを通じ、人とのコミュニケーションを広げる大切さを基本とし、地域との連携への取組が前進した1年であったのではないのでしょうか。児童生徒意見発表会では、久しぶりに子どもたちの声を聞いた気がし、我々も地域の一人として、子どもたちが誇りを持てる地域を作っていかなければならないとも思いました。今後も、学校と地域が同じ方向を見据え、そして向き合い、子どもたちがこの地域を担えるよう協力をしたいと思います。



石川智恵美 委員

富島中学校の卒業式に参列しました。約20年の時を経て第75回に及んでいました。壇上を彩る今を盛り目に咲く鮮やかな花々は、生徒を際立たせてくれていました。この花こそ本校の教育を具現化していると思えました。この日のためにどなたかが時機に応じて水や肥料を施し、休みことはあっても気を抜くことなく育て上げ、運び、最高の居場所に在ったのです。立派に育った人、花、式そのものの感動は言うまでもありません。総和がここに。

## ◆令和3年度 第3回 学校運営協議会（報告）◆

令和3年12月13日（月）

## ■ノーメディアタイムの実施について

山之口教頭より、11月に実施したノーメディアタイムの取組内容について説明があった。メディアと上手な付き合い方を目的に、小中合わせて中学校のテストと合わせて実施した。アンケートの結果、保護者のほとんどが取組を肯定的に捉えているようである。今後も取組の定着を目指し、継続的に実施していきたい。

## ■あいさつを通しての持続可能な取組について

富中校区を明るい魅力ある地域にしていくために、校区内で何に取り組んでいるかがすぐわかるように、目に見える形で取り組んでいくことが大事である。まずは「のぼり」を製作して視覚的に啓発していき、その後文書等で啓発してはどうか。数回にわたって啓発手段を変えていくことで、地域住民があいさつに取り組んでいることを理解するのではないかな。



【第3回協議会の様子】



【第4回協議会の様子】

■令和3年度学校評価アンケート結果について

「楽しい学校生活」、「生活習慣や社会生活・規範意識」、「安全教育」の項目では、いずれも90%前後の肯定的な回答であった。反面、「生徒の学習意欲」、「いじめなどがない学校づくり」、「キャリア教育への取組」の3項目で、生徒・保護者ともに30%弱が否定的な回答をしている。さらに、昨年度より評価が下がった項目では、いずれも学習に関する項目で本校の課題と捉えている。

委員からは、学校評価アンケート結果を見て感じたことは、それぞれが「学校」、「家庭」の責任にしている。それぞれの立場が役割を担っているが、その関係がもっとスムーズに連携がとれる状況になることが必要ではないか、との意見が出た。

■令和4年度教育課程（案）について

教務主任より、令和4年度教育課程（案）について説明があった。学校評価アンケートから、否定的な回答の多かった「生徒の学習意欲」、「いじめなどがない学校づくり」、「キャリア教育への取組」の3項目を重点課題と位置付けた。そこで教育課程を編成するにあたり、「生徒の学習意欲の向上」、「心の教育の充実」、「社会に開かれた教育課程の推進」の3点を令和4年度の教育課程に重点項目にあげた。

富島地区「あいさつ標語」募集（小中学校の部）

富島地区（富島中学校区）では、昨年開催しました「意見発表会」（主催・豊かな心を育てる生徒指導実践会議、4小中学校の学校運営協議会）において、家庭や地域とのふれあいを深め、「あいさつが飛び交う魅力ある地域」を目指していくことに賛同しました。

この思いを「あいさつ運動」として盛り上げていくために、今回「のぼり旗」を作製し、そこから広げる「あいさつ運動」の皆様から「標語」として募集しました。

優秀作品

※学年は旧学年です



実践会議事務局代表者会により厳正な審査の結果、左記のよう1点、各小中学校からそれぞれ1点の優秀作品を選考しました。

優秀作品には、表彰状と副賞（図書券）を贈呈し、「のぼり旗」にして各学校の「あいさつ運動」で活用するようにします。今後とも本地区のより一層の活性化のために、ご協力をお願いします。

おはようで みんなに笑顔 届けよう 細島小6年 佐藤 美弥さん	自分から 元気な声であいさつを えがお広がる明るいちいき 日知屋小3年 黒木 咲希さん	おはようと 言っつてえがおの 花がさく 日知屋東小3年 伊藤 日那乃さん	あいさつで 紡ぐ心と 地域の和 富島中3年 梅田 瑠夏さん	あいさつで 世代を超えて 心の交流 地域・保護者の部 朝倉 真弓さん
------------------------------------	--	---	----------------------------------	---------------------------------------

◆ごあいさつ◆

校長 田中 裕久

「心のある学校の創造」を目指して



幼少期を過ごし、教諭時代も鍛えられた、私にとっての第二の故郷「日向市」に、このたび校長として赴任させていただきました。田中裕久（たなかひろひさ）と申します。

伝統あるこの「富島中学校」に勤務させていただき、喜びと同時に、責任の重さやプレッシャーに押し潰されそうな毎日を送っておりますが、どうぞよろしくお願いたします。

ただ、このようにプレッシャーに押し潰されそうな状況であっても、朝起きた時、全く嫌な気持ちにはなりません。ストレスも無く、むしろ、早く学校に行きたいとさえ思います。学校ってやっぱり素晴らしい、プレッシャーさえ楽しめる、そんな場所だと、今、再認識しております。それは、自分の力がそうさせているわけではないことにも気が付きます。心から愛おしいと思う生徒達がいて、心を共に毎日昼夜問わず汗をかくくれる職員の仲間達がいてくれるからです。本当にありがたいことだと思います。そして、何より、本校を支えていただいている保護者及び地域の皆様の存在があってこそだということも、強く感じております。皆様、いつの時も、本当にありがとうございます。

しかし、生徒の中には、心に問題を抱え、登校できない子ども達もいます。また、人間関係に悩み、心を痛めている生徒もいます。本校の教育経営理念は、「夢のある 力のある 心のある 学校の創造」です。生徒達全員に対し、まずは「心」の部分大切に一日一日を過ごそうと伝えていきます。美しい「心」が育てば、学力・体力・生きる力が身に付き、ひとりひとりが毎日ワクワクするような夢をもてるようになると考えています。地域の皆様のお力をお借りしながら、地域の宝である本校の生徒442名全員が、「生きるって素晴らしい！毎日が楽しい！」と思えるよう、本校職員一同、誠心誠意、日々全力で職務に当たってまいります。